

探究演習

メディア情報4

第3回 ディベートの準備 (1) 立論、反駁、尋問

メディア情報コース

平居 悠（ひらい ゆたか）

到達目標

1. 大型望遠鏡建設計画の問題について自らの立場から論理的に説得力を持って説明できる。
2. 観測計画を自分の言葉でわかりやすく発表できる。
3. チームの目標を満足できる仕事の計画を協力して立てることができる。

前回

第1回

大型望遠鏡計画とハワイ先住民

第2回

対話の技術、ディベートの方法

第3回

ディベートの準備(1)立論、反駁、尋問

第4回

ディベートの準備(2)ロジックの検討

第5回

ディベートの準備(3)わかりやすい話し方

第6回

ディベートの実施 大型望遠鏡建設について

第7回

宇宙を理解する手法、観測計画の立て方

第8回

データ分析方法 データデータベースの使い方

第9回

問題解決の技術、プレゼンテーションの方法

第10回

プレゼンテーションの準備(1)データ分析

第11回

プレゼンテーションの準備(2)資料の収集

第12回

プレゼンテーションの準備(3)発表練習

第13回

発表会観測計画の発表

前回の目標

ディベートの全体像を把握する。

今回の内容

ディベートの概要

ディバートの流れ

ディベートの準備

ディベートで向上する力

- | | |
|----------|--------------|
| 1.批判的思考力 | 5.傾聴力 |
| 2.論理的思考力 | 6.質問力 |
| 3.迅速な思考力 | 7.情報収集・活用力 |
| 4.口頭表現力 | 8.コミュニケーション力 |

ディベートとは

論題に対する肯定側と
否定側に分かれる。

必要な役割

1. ディベーター
2. 審判
3. 司会
4. 時間係

ディベートの流れ

名称	やること	
	肯定側	否定側
1. 肯定側立論	自分たちの主張	—
2. 否定側尋問	答え	質問
3. 否定側立論	—	自分たちの主張
4. 肯定側尋問	質問	答え
5. 否定側第一反駁	—	反論
6. 肯定側第一反駁	反論・反駁	—
7. 否定側第二反駁	—	反論・反駁・総括
8. 肯定側第二反駁	反論・反駁・総括	—

立論

議論の内容を、自分たちの立場（肯定・否定）から、その立場の優位性を主張する。

尋問（質疑応答）

相手側の立論に対して、不明な点の確認や、矛盾点の指摘をし、それに相手側が応答する。

はん ばく 第一反駁

- 相手側が話したことを引用しながら、それに対しての疑問点、矛盾点を指摘し、根拠をつけて反駁する。
- 反駁に入ってから新しいメリット・デメリットを出してはいけない。

今回

第1回	大型望遠鏡計画とハワイ先住民
第2回	ディベートの方法
第3回	ディベートの準備(1)立論、反駁、尋問
第4回	ディベートの準備(2)ロジックの検討
第5回	ディベートの準備(3)わかりやすい話し方
第6回	ディベートの実施 大型望遠鏡建設について
第7回	宇宙を理解する手法、観測計画の立て方
第8回	データ分析方法 データデータベースの使い方
第9回	問題解決の技術、プレゼンテーションの方法
第10回	プレゼンテーションの準備(1)データ分析
第11回	プレゼンテーションの準備(2)資料の収集
第12回	プレゼンテーションの準備(3)発表練習
第13回	発表会観測計画の発表

今回の目標

- 三角ロジックを使って立論を組み立てられる。
- 相手のロジックの弱点を見つけ反駁することができる。
- 相手や自分の思考を批判的に眺め、指摘できる。

今回の内容

立論の組み立て方

反駁の仕方

尋問の方法

今回の内容

立論の組み立て方

反駁の仕方

尋問の方法

論理的な主張

以下は論理的な主張か？

「TMTはすごいからマウナケアに建設すべきだ。」

以下は論理的な主張か？

「マウナケアは他の山と比べて星を観測するのに適した環境であるため、TMTをマウナケアに建設すべきだ。」

以下は論理的な主張か？

「TMTは空の光を奪うのでマ
ウナケアに建設すべきではな
い。」

以下は論理的な主張か？

「他の山でもTMTは性能を発揮できるので、文化的懸念のあるマウナケアに建設すべきではない。」

論理的であるために必要なこと

- 1.主張を明確に示す。
- 2.根拠を過不足なく示す。

非論理的になる原因 1

主張がはっきりしない

非論理的になる原因 2

主張がー貫していない

非論理的になる原因 3

主張があるが、根拠がない

非論理的になる原因 4

根拠はあるが、主張がない

非論理的になる原因 5

根拠が怪しい・推測に過ぎない

非論理的になる原因 6

根拠が個別的で、一般性に欠ける

非論理的になる原因 7

論理に飛躍や矛盾がある

非論理的になる原因 8

unnecessary ことが書いてある

非論理的になる原因 9

曖昧な表現 ・ 感情的な
表現がある

三角ロジック

A) 主張

TMTをマウナケア
に建設すべきだ

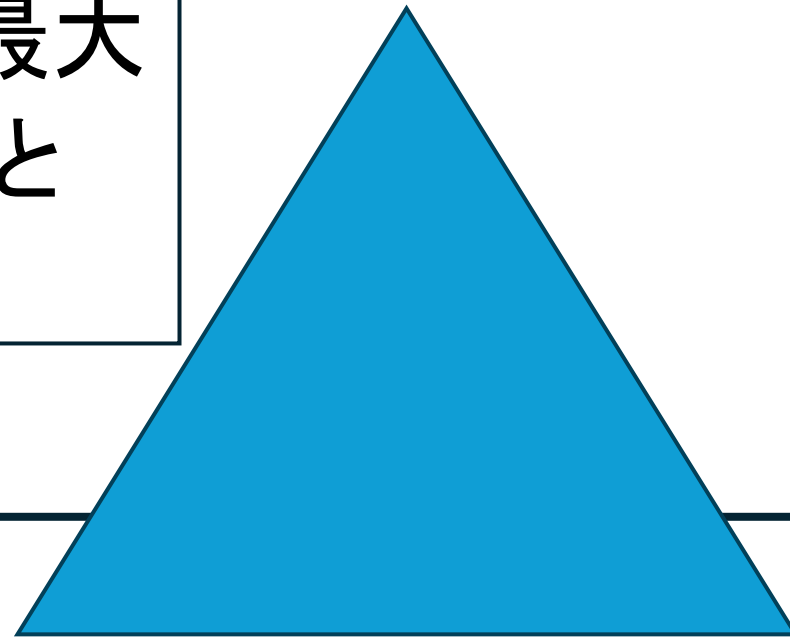
TMTの性能を最大
限に生かすこと
ができる

マウナケアは大気
の揺らぎが他の山
と比べて少ない

根拠

C) 理由づけ

B) 事実



以下の例は隙のないロジック になっているか？

【主張】 2,000 mの山に登るなら、防寒着を持っていくべきだ。

【事実】 今、山の下にいても、肌寒い。

【理由づけ】 100 m高度が上がると、気温が0.6~1度下がる。

以下の例は隙のないロジックになっているか？

【主張】 A君の家はお金持ちに違いない。

【事実】 A君は高級ブランドの時計を持っている。

【理由づけ】 高級ブランドの時計を持っている学生は、お金持ちの家の子どもだ。

前回の課題を共有しよう

論題

「TMTをマウナケアに
建設すべきである。」

課題（資料収集）

1. 論題に関する資料を検索する。
2. できるだけ異なった観点のもの5つを選ぶ。
3. 次回の授業で自分の収集した資料一つにつき、キーワードを3～5つ挙げ、1分程度で概要を説明できるようにする。
4. 資料として引用できそうなところをメモしておく。
5. s4探究演習(メディア情報4)「#02 課題(資料収集)」に指示通り書き込む。

進め方

- 一つの資料につき、1分程度でキーワードと概要を説明する。
- 聞いている人は、追加で必要な資料など、気づいたことがあったら、ブレインストーミング記録用紙に記入する。
- 共有された資料の中にメリットやデメリットの根拠として使えるような資料があったら、メモをブレインストーミング記録用紙に記入する。

進め方

強いと思われるメリットとデメリットをブレインストーミング記録用紙から三つずつ選び、三角ロジック表の「主張」に記入する。

進め方

「事実」に、集めた資料で使えそうなものがあれば記入する。もしない場合は、「これから集めたい資料」を記入する。

進め方

「主張」と「事実」をつなぐ「理由づけ」として考えられることを簡潔に書く。

今回の内容

立論の組み立て方

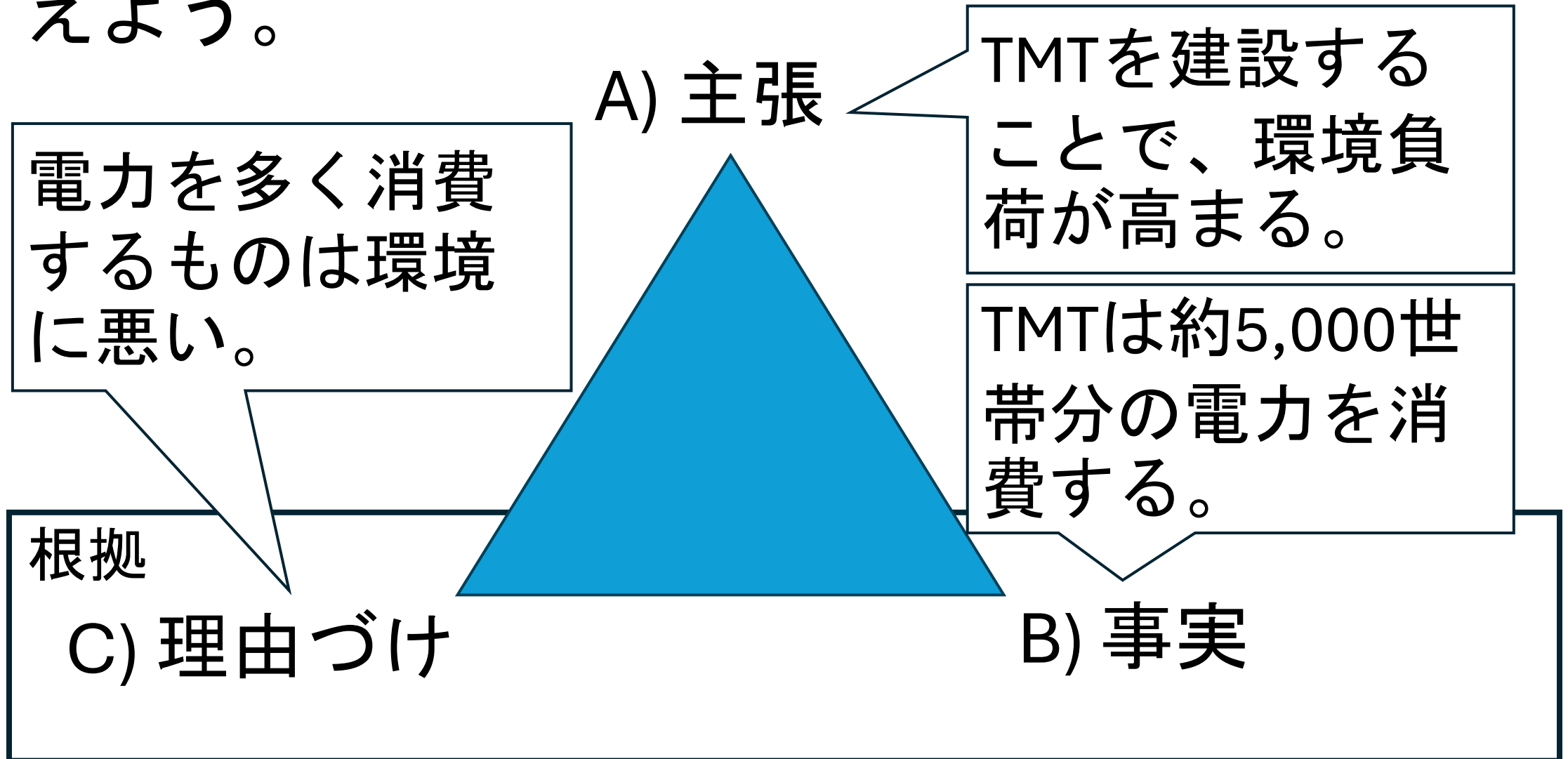
反駁の仕方

尋問の方法

反駁とは

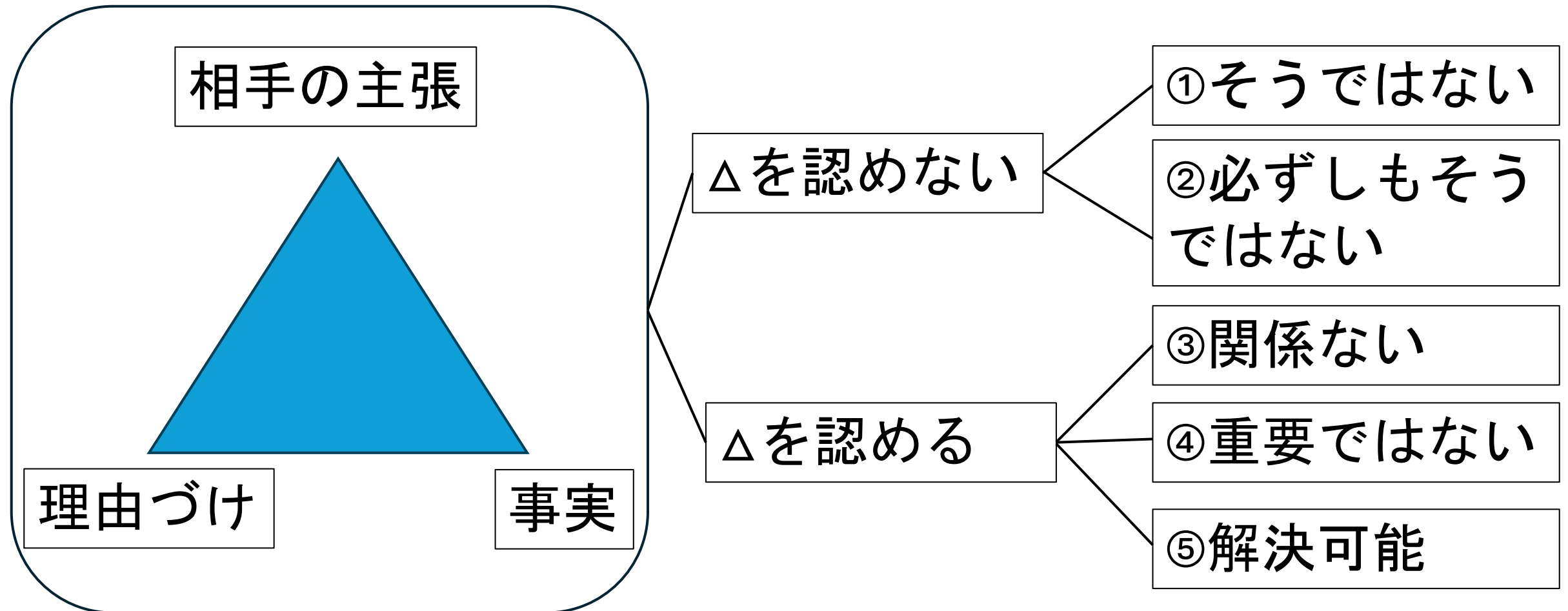
相手の立論における三角ロジックの問題点を指摘し、主張が成立しないことや主張する効果が小さいことを証明する。

以下の三角ロジックで作られた立論にはどのような問題点があるか？それを突く反駁も考えよう。



立論の例から反駁を考えよう

反駁の型



反駁のタイプを整理しよう

プリントで書いた反駁が①～⑤の
でどれにあたるか考えよう。

今回の内容

立論の組み立て方

反駁の仕方

尋問の方法

批判的思考

対象に問題点はないかを検討すること、対象をより正確に眺め、妥当性を判断する思考の方法。

A) 主張

探究演習を履修しよう。

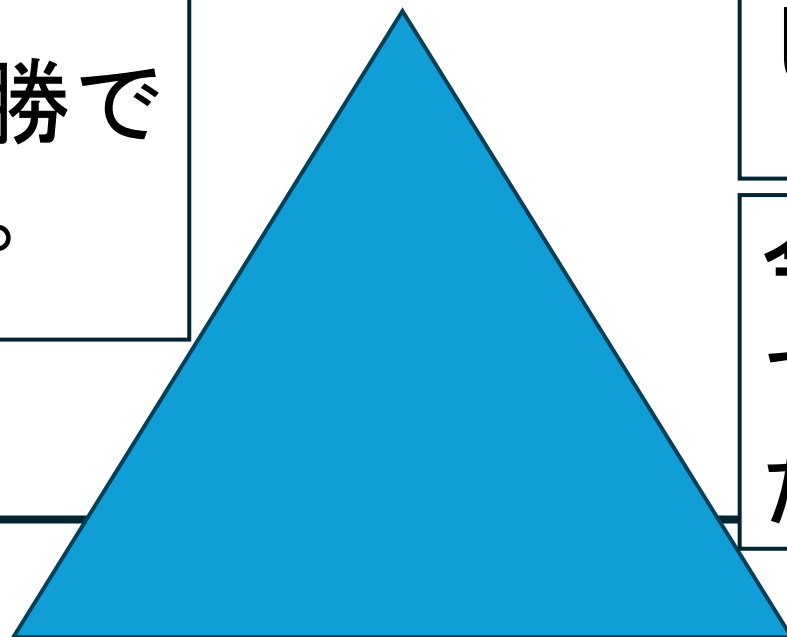
探究演習は楽勝で単位が取れる。

今まで探究演習で不合格になった人はいない。

根拠

C) 理由づけ

B) 事実



批判的思考の三つのステップ

1. 問題点の発見 「どこが怪しい？」
2. 問題点の明確化 「どうして怪しい？」
3. 問題点の解決 「何を聞く？」

ディベートの例

論題：探究演習を履修すべきか。

立論

探究演習を履修すべきだ【主張】。

なぜなら、探究演習は楽勝で単位が取れる【理由づけ】からだ。

先輩の話によると、今まで探究演習で不合格になった人はいない【事実】。

つまり楽勝科目だ【理由づけ】から探究演習を履修すべきだ【主張】。

尋問

尋問 1 「今年もこれまでと同じ先生ですか？」

応答 1 「多分そうです。」

尋問 2 「確認しましたか？」

応答 2 「いいえ。確認はしていません。」

反駁（反駁の型③）

これまでの探究演習は楽勝だったのかもしれませんが、今年も同じ先生とは限りません。

Bさんはそのことを確認していません。

事実が確認できていない以上、これまで不合格の人がいなかったことを、今年の実況とは関係ないといえます。

尋問の目的

1. 相手側立論の不明な点を確認して、明らかにする。
2. 反駁に進むために必要な情報を引き出す。

全体の注意点

1. 主導権は尋問側にあり、応答側は質問されたことのみ答える。
2. 尋問側、応答側、共に簡潔に話すことを心がける。
3. 尋問を一方向的に複数並べるのではなく、「尋問 1 → 応答 1、尋問 2 → 応答 2」と進める。

プリントの尋問と応答の問題点を
指摘し、改善案を考えよう。

今回の内容

立論の組み立て方

反駁の仕方

尋問の方法

今回の目標

- 三角ロジックを使って立論を組み立てられる。
- 相手のロジックの弱点を見つけ反駁することができる。
- 相手や自分の思考を批判的に眺め、指摘できる。

課題（立論）

論題について賛成と反対の立場からそれぞれ立論案を作成する。

s4探究演習(メディア情報4)「#03 課題(立論)」に指示通り書き込む。

締め切り：10月25日(日)

立論のフォーマット

[肯定・否定]側は「TMTをマウナケアに建設すべきで[ある・ない]」と主張します。論題を採用することで起きる[メリット・デメリット]は1点あります。[メリット・デメリット]は A です。なぜなら C からです。証拠資料を引用します「<肩書き>の<著者名>・<機関名>」によると、「 B 」。・このように C から、 A のです。以上のことから、[肯定・否定]側は、「TMTをマウナケアに建設すべきで[ある・ない]」と強く主張します。

次回

第1回	大型望遠鏡計画とハワイ先住民
第2回	ディベートの方法
第3回	ディベートの準備(1)立論、反駁、尋問
第4回	ディベートの準備(2)ロジックの検討
第5回	ディベートの準備(3)わかりやすい話し方
第6回	ディベートの実施 大型望遠鏡建設について
第7回	宇宙を理解する手法、観測計画の立て方
第8回	データ分析方法 データデータベースの使い方
第9回	問題解決の技術、プレゼンテーションの方法
第10回	プレゼンテーションの準備(1)データ分析
第11回	プレゼンテーションの準備(2)資料の収集
第12回	プレゼンテーションの準備(3)発表練習
第13回	発表会観測計画の発表